

## あとがき

今年の SPring-8 合同コンファレンスは、昨年の開催形態よりさらに産官学融合を図り、第2回として開催されました。コンファレンス初日は主催者団体の区別なく開催者報告、ポスターセッション、招待講演等主催者団体一体となった形態で、二日目は産業利用報告会の主催3団体(JASRI 殿・兵庫県殿および SUNBEAM 共同体)に加え、SPring-8 利用者懇談会的主催者団体別の口頭発表で進められ、最後に主催者全体による総括討論で締めくくられました。開催時期が9月から11月に変わったことや、開催形態の決定が少々遅れたため、準備・発表に戸惑いもありましたが、コンファレンス当日は多くの方に足を運んでいただき、盛況の内に終わることが出来ました(参加人数:産業利用報告会:193名、SPring-8 シンポジウム:189名)。ご参加いただいた方々ならびに運営等でご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

今年の発表内容は、各社利用・研究報告17件と、共同体活動としてX線回折装置、XAFS装置、イメージングの3件の発表がありました。各社利用・研究報告では、サンビーム共同体構成各社の多様性を反映し、機能材や構造材、無機材や有機材、構造解析や定量分析、X線回折法やXAFS、X線磁気顕微鏡等と、計測試料、計測法ともに多種多様なものが適用され、各社の放射光適用範囲の広がりを示すとともに、今後のBL16のあるべき姿を彷彿とさせる内容だったと感じられました。

成果公開の促進が求められる昨今、発表会形態についても検討を加え、より効率的な発表形態により展開する必要があるものと考えます。また、来年度からは発表会の報告書においても査読等を考慮したより有効な、そしてより一般性の高い形式にすることが求められています。これらの諸点を考慮しサンビーム共同体としての更なる発展を目指していきたいと考えております。これまでも増してご支援ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願いいたします。

共同体技術WG主査 巽 修平  
(川崎重工業(株))

今回第10回サンビーム研究発表会報告書の編集を担当させていただきました。13企業グループの発表をまとめる作業を通じて、各社様々な研究開発を行なっていることを改めて認識いたしました。本報告書が各社の研究開発やSPring-8の産業利用の拡大にお役に立てれば幸いです。本報告会開催及び本報告書編集にあたり、ご尽力された方々およびご協力いただいた関係者の皆様に深く感謝いたします。

産業利用報告会報告書編集担当 越谷直樹  
ソニー(株)